

活動報告

団体名	一般社団法人熊本県鍼灸マッサージ師会
活動名	避難生活で起こる心身の問題に対する鍼灸マッサージによるケア活動
活動期間	2016年5月～2017年9月
活動の成果	<p>熊本地震発災後から5月8日まで、DMATの多職種連携として避難所巡回を行い、エコノミークラス症候群や生活不活発病、生活機能病などに対して、健康被害を最小限に留めるために鍼灸マッサージによるケア活動を行いました。(20日間、利用者1,106名)</p> <p>拠点避難所(熊本市立総合体育館)では、上記疾患とともに被災後の精神的な負担および慣れない環境から起こる自律神経症状を抱えた方々に、鍼灸マッサージの施術と健康相談・運動指導を行い、心身の健康の回復と疾病・介護予防に努め、生活再建意欲の醸成と向上に繋げることができました。(40日間、利用者446名) 拠点避難所は2016年9月15日閉鎖)</p> <p>今年の2月23日からは、熊本市の仮設住宅で最も交通の便が悪く、戸数(入居者)も多く、高齢化率も一番高い、城南町藤山仮設団地で活動。</p> <p>ここでは、被災後の慣れない生活の継続により、生活機能病の悪化や不眠・不安・便秘等の症状を訴える方が多く、9月27日までの40日間に767名が施術を受けられました。</p> <p>受療者の多くに症状の軽減が見られたことから、この健康支援鍼灸マッサージ施術活動に対して大きな支持を頂いています。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>発災直後から全国より熊本入りしてくれた災害医療に詳しい鍼灸マッサージの国家資格を有する方々と熊本県庁に医療救護班登録をしたボランティア団体として災害支援鍼灸マッサージ活動を開始しました。</p> <p>自己完結型のボランティア活動として取り組みましたが、時間の経過とともに被害の甚大さとそれに伴う活動範囲の大きさ、そして先の見えない活動に個人として、またその有資格者の集まりの師会としても限界を感じるようになっていきました。</p> <p>その一番の原因は、金銭的な負担でした。活動に一番必要である鍼灸の材料に関しては、メーカーからの支援を初期には受けられましたが、足りないものも多くあり、簡易ベッドや諸々の備品を揃えるのに掛かる金銭の負担は、自ら被災者でありながら家庭の仕事や治療院の片づけや営業を後回しにして活動する者にとって大きいのしかかるものでした。</p> <p>全国の鍼灸関係団体からの支援金等が師会に集まってきましたが、ボランティア活動に使うことの是非については判断がつかねていました。</p> <p>そういう時期に、赤い羽根「ボラサポ・九州」の補助金の話を知り、応募し採択して頂きました。</p> <p>それにより、無理なくできるようになった、鍼灸マッサージ施術、健康相談、運動指導のボランティア活動は、肉体的・精神的そして経済的にも疲弊した被災者の方々の、心身の健康の回復・維持に貢献し、生活再建意欲の醸成・向上にも繋がっていったと考えています。</p> <p>現在、皆様の支援金である浄財を使っただけの活動は1年半になり、主に仮設住宅で生活されている被災者の健康被害が最小限に留まるように、そして健康保持増</p>

進、疾病・介護予防のために行っています。

そして、この災害復興健康支援鍼灸マッサージボランティアは、現在まで127日間、延べ700名以上の有資格者の協力の下、2,800名近くの被災者の方々に對し行われ大変喜ばれています。

鍼灸マッサージは、心身の安定につながり体に優しく、安心して安全で安価な治療です。

今回の熊本地震での活動を通して、少しでも鍼灸マッサージが国民から正当な評価を受けることに繋がっていけば有り難いと思っています。

(活動のようす)

